

市政記者各位

令和6年4月24日

韓国光州市で開催される国際的な展覧会で 福岡のアーティストが作品を展示します！

福岡市では、アートを通じたまちづくりを促進する **Fukuoka Art Next** 事業を推進しており、その一環としてアーティストの成長支援に取り組んでいます。この度、アーティストの国際的な評価を高めることを目的として、令和6年9月から韓国光州市において開催される「第15回光州ビエンナーレ」の日本パビリオンとして福岡市が参加し、**福岡を拠点に活動するアーティスト2名が光州市内で展示をします。**

■ 光州ビエンナーレ

2年に一度開催されるアジア地域を代表する現代美術の国際展であり、30周年を迎える第15回 光州ビエンナーレでは、関係性の美学で知られるニコラ・ブリオーがアーティストィックキュレーターを務める。

本会場と国別パビリオンから構成され、今回、パビリオンは過去最大規模の20か国以上が参加予定。日本からのパビリオン参加は今回の福岡市が初となる。

■ 開催概要

【開催期間】令和6年9月7日(土)～12月1日(日)

※詳細内容は今後順次公開予定

【会場】韓国・光州市内

■ キュレーター

山本 浩貴 (やまもと ひろき)氏

批評家、文化研究者、実践女子大学准教授。1986年千葉県生まれ。一橋大学社会学部卒業後、ロンドン芸術大学にて修士号・博士号取得。韓国・光州のアジアカルチャーセンター研究員、香港理工大学ポストドクトラルフェロー、東京芸術大学大学院助教、金沢美術工芸大学講師などを経て現職。著作に『現代美術史』(2019)、『ポスト人新世の芸術』(2022)など。



■ アーティスト

内海 昭子(うつみ あきこ)氏

1979年兵庫県生まれ、現在福岡市を拠点に活動。「時間の連続性を表出する風景の再構築」をテーマに、インスタレーションや、映像、写真などを用いた多様な表現を行なっている。2003年武蔵野美術大学映像学科卒業、2011年東京芸術大学美術研究科修士課程修了、2015年同博士後期課程修了。これまでKünstlerhaus Bethanien (ベルリン)、A4 Art Museum (成都)、SeMA Nanji Residency (ソウル)、Kuandu Museum of Art (台北)、越後妻有アートトリエンナーレ(新潟)などで展示を行なっている。



山内 光枝 (やまうち てるえ)氏

1982年福岡県生まれ。映像、写真、ドローイング、インスタレーションによる作品を手掛ける。2006年ロンドン大学ゴールドスミスカレッジ(イギリス)BAファインアートを卒業。2013年には済州ハンスブル海女学校(済州島・韓国)を卒業後、2015年に文化庁新進芸術家海外研究員として、2016年に国際交流基金のアジアセンター・フェローとしてフィリピンに滞在。初の長編映像作品が東京ドキュメンタリー映画祭2019で奨励賞を受賞。最近作「信号波」(2023)は日本統治下の釜山に暮らした自身の家族史に向き合うセルフドキュメンタリー。



【問い合わせ先】 所属：経済観光文化局アートのまちづくり推進担当 担当：吉武、梶原
TEL：707-3779(1896) MAIL: art-community.EPB@city.fukuoka.lg.jp